作成過程で苦労したこと

意見集約の過程こそがヒューマンネットワークの構築

築場

連携連絡票を作成する過程で苦労したことについて伺います。どのような事でご苦労をし，それをどのように解決したかをお伺いします。

小松

大きく分けて二つありました。まず一つ目は，先程も述べましたが，医療側にその必要性をなかなか理解してもらえませんでした。見事な完全スルーでしたからね（笑）。それに対する戦略として，医師の皆さんには，感情に訴えるよりも理論的に説明した方がいいんだろなと思い，当時の宮城県気仙沼保健福祉事務所成人高齢班の皆さんにご協力をいただいて，様々なエビデンスに基づく書類等を大量に作成しました。結構な量でしたね。1 cmにはなりましたかね。これでもか!!と言わんばかりに説明し，わかってもらえるまで攻め続けました（笑）。それが功を奏して，理解していただけたんですけど。でも，これってとても大事なことで，お互い違う法律の中で仕事をしているため，他の職種の法律なんて気にしなくたって自分の仕事はできるんですよね。知っている方が稀で，自分の仕事の事だけを考えるのであれば，知っている必要性なんて無いんですよ。そういう意味では，介護保険法に基づくケアマネジャーとの連携を受け入れてくださった，気仙沼圏域の（医師・歯科医師・薬剤師の）先生方は稀有な存在であり，受け入れていただいた心の広さに感謝しかありません。

そして，二つ目は，医師会，歯科医師会，薬剤師会，ケアマネジャー，特に医師会とケアマネジャー協会の間で，様々な意見があり，折り合いを見つけるのが大変でした。お互いの事情がありますから，そのバランスをとるのに苦労しました。提案してから完成するまでに，約1年の期間を要しましたが，話し合いの度に，様々な意見が出て来るので，顔に出さずに，言葉にもしませんでしたが，心の中では「どれだけ言いたいことを言うんだこの人達は!!いい加減にしろよ。コラ!!」って思ってました（笑）。

でも，これもとても大事なことで，現場の声をよく聴いて反映する事，そして，互いのフィールドが異なる各専門分野間で，その必要性を互いが認識した上で協議・検討し，一つの様式を共有して共同で作成すること。さらに，各組織からの合意を得て地域のオフィシャルな書式として運用を開始することは，容易なことではないのですが，その作業過程を経て作成しているかどうかで，その後の運用にもとても影響してくるのではないかと考えています。地域が本当にそれを活用できるかどうかは，そこにかかっているんだろうなと思います。そして，その過程自体が，ヒューマンネットワークの構築に繋がるんですよね。そこが非常に大事だったんだなと思います。この難しい調整役を担っていただいた気仙沼保健福祉事務所の成人高齢班の皆さんには，感謝の念に堪えません。おそらくぶっちゃけ言うと，本当に面倒くさかったんじゃないかと思います。その辺の事も含めて髙橋さんのお話を聞ければと思います。

ケアマネジャーの資質向上

髙橋

ケアマネジャーさんは，主治医の先生方にも協力を依頼することもある職業ですので，ケアマネジャーの質の向上も大事だと思っていました。何かできるかと考えた時に，ケアマネジャー協会と共催で研修会を何回も開催しました。4回くらいのシリーズで，何故，医療と介護の連携が必要なのかと

武田雄高（たけだゆたか）さん

Profile

宮城県気仙沼市出身。
東北薬科大学卒業後，株式会社南郷調剤薬局に勤務。
現在，同社代表取締役。一般社団法人気仙沼薬剤師会会長。